

大門碑林公園へ 拓本を採りに 出かけよう!

《採拓コーナー》 「石碑」解説一覧

■『虞世南・開成石經尚書第二』
唐開成二年(853)中国古代の伝承的な歴史を記したもので、この中に我國の「平成」の年号の元になった「地平かにして天成る」がある。
横30cm×縦65cm×4枚

■『空海書・漢雀子玉・座右の銘』
『人の短を道(い)う無かれ 己の長を説く無かれ』
日本三筆の一人、空海が漢の雀子玉の座右の銘を書いたと伝えられる巻子本。堂々とした氣宇壮大な書であるため、ここには巻頭の十字のみを、行款を変えて二行とした。
横50cm×縦90cm

■『松尾芭蕉』 横65cm×縦40cm
『ものいはず花を見る友も哉と何某鶴亀が云けむ 我草庵の座右に書付けることとおもひ出て』
『ものいはず 唇寒し 秋の風』ばせを
横30cm×縦90cm

■『小林一茶』 横30cm×縦90cm
『今ころや大内山のほと、さす』一茶坊
横30cm×縦90cm

■『良寛・天上大風』 横70cm×縦70cm
良寛の風字として、あまりにも有名な作品。良寛が行脚中に子供にせがまれて風に書いた書。配字が堂々として、率意性と無我境地の書とも言われ、威力が充滿し圧倒される。

■『良寛・般若心経』 横100cm×縦50cm
良寛は幾種もの般若心経を書き残しているが、ここに刻したものは仏教の真理を見極めた良寛らしい力強い字体の中に繊細で澄みきった境地を感じさせ、簡潔に説かれた經典である。

■『継色紙』 横90cm×縦60cm

平安時代—小野道風の筆と伝えられるが確たる根拠は無い。もとは冊子であったが、その見開き二頁に渡って一首の歌が書かれている様が、色紙を継いだように見えることから継色紙と称されるようになった。横長の方形に、実に巧みな変化をつけて文を散らし、見事な筆致を見せている。
『こひしさに みにこそきつれ かりごろも かへすまいか』 うらみざるべき
横140cm×縦40cm

■『劉自得・大門碑林』 横140cm×縦40cm
中国の書法家として知られる、劉自得による書。メインの四阿(あずまや)に掲げてあるものと同字体。

■『武田晴信(信玄)の祈願状』
晴信 二十五歳の厄年を迎えた天文十四年(1545)二月、延命長寿と文徳武運の円満成就を近江国多賀大明人に祈願する自筆の願文。晴信の誕生年を断定する貴重な資料でもある。
横55cm×縦38cm

■『渡辺青洲(1805~1871)・魚釣花賞』
『花びらを賞し魚を釣る』
山梨県生まれ。亡命貴族である中国の王廷章に漢詩・書画を学ぶ。明治三十八年「青洲文庫古板目録」を出版。後年大正十三年に青洲文庫は東京大学に保存された。
横150cm×縦50cm

■『種田山頭火(1882~1940)』 村松常男書
『わけいって わけいって ありやま』
俳人、山口県防府市生まれ。萩原井泉水に師事。脱社会の思念を無季・自由律の形式で表現する句集「草木塔」(1935)の他、日記・紀行「愚を守る」「あの山越えて」などがある。
横80cm×縦45cm

■『金印・漢倭奴国王印』 横50cm×縦50cm
後漢の光武帝は、建武中元二年(55)春正月に東夷(日本国)の倭奴国の使者に印綬(金印)を授けた。

■『阿部仲麻呂(672~720)・百人一首』
奈良時代の歌人、唐に留学して玄宗皇帝に仕えた。『あまのはらふりさけみれば かすがなる みかさのやまにいでしつかか』の望郷の歌は有名である。
横30cm×縦65cm

■『人生長寿・長生未央』
中国の秦代(紀元前二二一~二〇六)と漢代(紀元前二〇二~西暦二二〇)の時代のものを複写したものである。どちらの言葉も生きていく、深い意義のある言葉。
横40cm×縦40cm×2枚

■『升色紙』 横65cm×縦65cm

平安時代—藤原行成の筆と伝えられるが、確たる根拠は無い。同系の色紙が二十九紙ほど知られる。升型の冊子本が一葉ずつ分けられ、珍賞されてきた。円味のある流麗で伸びやかな筆致を示す。散らし・構成は独特の美しさを見せている。
『いまははやこひしなましをあひみむとたのめしことぞいのらなりけし』

■『寸松庵色紙』 横60cm×縦60cm

平安時代—紀貫之の書と伝えられる。寸松庵は江戸時代の茶人の茶室の名。当時の茶人に宣伝されたことにより、この名で呼ばれるようになった。現在は、この種の色紙が三十余枚知られる。伸びやかで力強く縦に流れる筆致は仮名の中にあつては珍しい。文字の散らしの構成は簡潔であるが、実に見事なまとまりを見せている。
『おくやまにのみみぢふみわけなくしかのこゝきくときぞあきはかなしき』

■『蟬丸・百人一首』

『これやこのゆくもかえるもわかれてはしるもしらぬもあふさかのせき』の歌で知られる伝説的人物。蟬丸の伝説は「今昔物語・第二十四」や「平家物語・巻十」にも記されている。
横29.5cm×縦65cm

■『小野小町・百人一首』

平安時代の歌人で六歌仙の一人。絶世の美女と言われ多くの伝説を残した。
『はなのいろはうつりにけりな いたづらに わがふよにふるなかくせしに』
横29.5cm×縦65cm

■『良寛・交友莫争』 横81cm×縦56cm

『交友莫争・沙門良寛書』 友と交わりて争うなかれ、とある。人々に慕われ、生涯托鉢行脚の姿勢を貫き、偽りのない良寛らしい真心にふれた書。

■『喜撰(きせん)』 横30cm×縦65cm

平安前期の歌人。六歌仙の一人。都のほとりに住んだ隠者風の僧侶歌人と言われている。
『わがいははみやこのたつみしかすむ よほ(を)うじやまととはいふなり』

自分だけの ゆっくりとした時間： 大門碑林で日がな一日、 手拓を楽しむ。

■『王羲之・十七帖』（石刻板6枚）

書聖王羲之の書と伝えられる書簡二十九種を集め、一巻とした法帖。巻頭に「十七日」とあるのに因んで「十七帖」と称され、王羲之の草書学習の手本として尊重されている。ここに重刻したものは「三井本十七帖」である。この本は、江戸時代に我國に入り「賀名海屋」の手に渡り、その後「巖谷一六」「目下部鳴鶴」と転じて、三井家の者に帰した。

横 600 cm × 縦 45 cm

■『王羲之・蘭亭序』（石刻板2枚）

永和九年（353）三月三日。王羲之を始めとする四十余人が、名勝蘭亭で宴を催した。人々は曲水を流れる觴（さかずき）を手に自作の詩を作った。これらの詩「二十七編」を編んだものが「蘭亭集」であり、その詩集の序文を王羲之が書した。これが古来より行書の名作と言われる「蘭亭序」である。種々の本や拓本が伝えられているが、ここに重刻したものは、明代の豊坊が刻したとされる「神龍半印本蘭亭序」の原石拓を底本として用いた。

横 200 cm × 縦 45.5 cm

■『王羲之・楽毅論』

王羲之の四十六歳の書とされる。文は魏の夏侯玄の作である。古くから王羲之の楷書の最も優れたものの一つである。種々の拓本が伝えられているが、ここに重刻したものは、明末清初に刻された「怪雪堂亭帖」の中にある楽毅論である。

横 100 cm × 縦 45 cm

■『百寿図』（清朝後期・十八世紀頃）

百の「寿」を種々の字形で示す。基本は篆書体であるが、所々に工芸的な装飾中心の文字もある。寿字への吉祥の思いが工芸的に表現されたものであろう。文字から離れたものもある。

横 75 cm × 縦 90 cm

■『白隠禅師筆・百寿図』

横 75 cm × 縦 90 cm

白隠（1686～1768）は、江戸時代の高僧である。名は慧鶴（えかく）、駿河原の人。晩年は伊豆龍澤寺を開き、禅の普及に努めた。大胆にして重厚な筆致の書画を数多く残し、この百寿図は、八十三歳の時の筆である。「寿」を百通りに字形を変えて書いている。

■『漢瓦当・長生無極』

中国の漢時代（206～220）の建築物の軒先に使用された丸瓦を「瓦当」と称す。円形の平面に吉語や建物の用途を示す文字または画像・紋様が刻されている。この瓦は、漢代瓦当の真物で、扇形の平面に文字が巧みに布置されている。

横 40 cm × 縦 40 cm

■『石鼓文』

中国の石に刻された文字の中でも最も古いものの一つであり、石刻の祖と称されている。その石が鼓の形をしていることから「石鼓文」と呼ばれている。中国の秦時代以前に用いられていた篆書体で、ここには「第一鼓・第二鼓」のみを宋拓に従って重刻した。

横 80 cm × 縦 50 cm × 2枚

■『智永・真草千字文』

王羲之の子孫とされる隋時代の僧智永が真草二体（楷書・草書）で千字文を八百本書き、多くの寺に納めたと伝えられる。この真蹟は伝来していないが、拓本は各種が伝えられ、古来より楷書・草書の手本とされている。ここに重刻したものは「宝墨軒本」と称されている珍しい種類の千字文である。

横 333 cm × 縦 40 cm × 2枚

■『趙孟頫・篆隸千字文』（元代・十三世紀頃）

趙孟頫（1254～1322）は、字は子昂、松雪道人と号す。宋・元の二朝に仕え、書聖王羲之の古法を復興して品格のある書法を創り出し、後世に大きな影響を及ぼした。ここに示した「篆書」「隸書」の二体の千字文は、「六体千字文」大家・小篆・楷・行・草・隸書の中から取り出したものである。

横 333 cm × 縦 40 cm × 2枚

●その他、初心者練習用として机上に置かれた甲骨文字や動物、米寿の寿の文字など石碑が十七種類ございます。

大門碑林

●採拓コーナー

拓本の楽しさ、面白さを知って頂くコーナーです。初心者の方には指導者が採り方をご指導致します。手ぶらでお出でになられても採拓に必要な道具一式と紙（大3枚・小3枚）を準備しております。採拓時間に限りはございませんので、ゆっくり時間をかけてお楽しみ下さい。

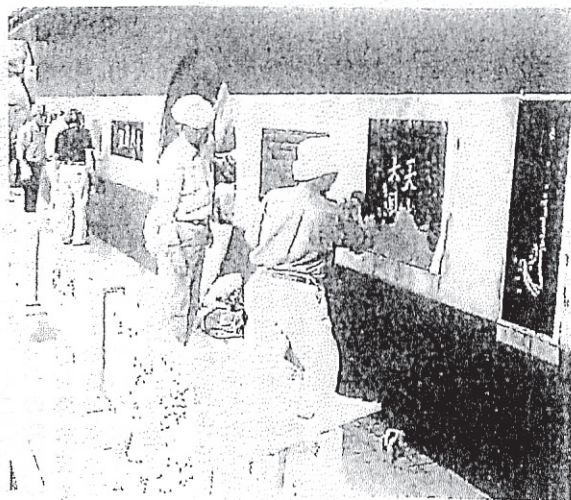
【採拓使用料】 開園時間/am 9:30～pm5:00

（入園はpm4:00まで）

・一般/大学生 1,000円（税込）

・小/中/高生 500円（税込）

基本的に拓本用具は碑林公園備付けのものを使用。



市川三郷町/大門碑林公園

〒409-3601 山梨県西八代郡市川三郷町市川大門4930

TEL 055-272-7100 FAX 055-272-0499